

(えびな九条の会会報六五号二〇一二年五月二八日刊予定―投稿原稿)

二〇一二年日比谷五・三憲法集会参加報告

えびな9条の会代表 下山房雄

二〇〇四年六月発足の「九条の会」運動が、〇六年九月―翌年九月の安部内閣の改憲政治などと激しく切り結ぶ中で、国民世論の中では護憲勢力が改憲勢力を上回るようになった。しかしそれは議会勢力には反映されず、護憲を党是とする政党は、左翼の日本共産党と社会民主党という極少数政党に限られている。だからこそ、この両党の共同闘争が期待されるのだが、この両党幹部の講演を含む集会を日比谷公会堂で行い、銀座デモを行う行動Ⅱ「五・三憲法集会」の第一二回が、強い雨天で始まったこの五月三日に開催された。

二〇〇五年発足のわが「えびな九条の会」は、〇七年にこの「五・三憲法集会」に一五名で参加して以来、ほぼ毎年参加してきた。第五回目となる今年も三名と少数で

はあったが参加、二六〇〇名の集会、百万円を越す会場カンパ、帰宅後聴いたNHK夜七時ニュースにおける護憲集会全国代表的な紹介に僅かでも寄与できたことに満足。

例年そうであるように、今年も講演、アトラクションいずれも素晴らしかった。特に強烈なアピール力があつたのは、宜野湾元市長伊波さんの沖縄基地実態を踏まえた日米安保糾弾であつた。普天間基地が日米いずれの航空法による飛行場ではなく、安保条約による米軍への単なる提供施設ということで、発着、飛行、騒音などに何の有効な規制が無く、米軍機が暴虐に飛び回っているとのことだ。知らなかった!! 共産党委員長志位さんの話も、そのことはもう聞いたよという言説ではなくて、違憲の現状を三項―生命人権損傷の原発、安保、橋下政治―にわたって定式化した新鮮味のあるもので啓発された。

銀座デモ出発時には雨もほぼ終息、「憲法改悪反対 世界に誇る九条を守ろう えびな九条の会」の黄色い幟を高く掲げて行進することができた。首都高を街宣車で占拠、デモの頭上から大音量のマイクで罵声を浴びせる行為をやったりしてきた極右のおじさんお兄さんたちは、今年はずデモの沿道歩道に連なつて「エセ平和勢力 解散しろ」などの連呼。

この四月決定の自民党新改憲案「表現の自由」条項に「公益及び公けの秩序を害す

ることを目的とした行動を行い、ならびにそれを目的として結社をすることは認められない」と治安維持法バりに書かれていることを想起して、この「解散」の罵声にきつく緊張し憤激した。

(国分南やまに平在住)